

エゾマツ

北海道ボランティア・
レンジャー協議会
エゾマツ12号
平成2年2月20日
発行責任者
河村 千束

新しい年輪を刻む

北海道ボランティア・レンジャー協議会々会長
河村 千束

1990年の春が静かに明けました。おめでとうございます。この会も1989年には皆様に色々とお世話になり厚くお礼を申し上げます。今年も更に充実した会になるよう努力してまいりますので、会員の皆様には更に一層の暖かいご協力をお願い致します。

さて昨年は昭和から平成と移り変わり、国の内外も極めて慌ただしい年でありました。又世界の人々が新しい時代への出発点として多くの議論が交わされた年でした。中でも自然環境問題を中心に世界の人々が一つの考え方の下に地球的規模の対策が打ち出された年でありました。更に身近な問題として私達の周辺の現況を改めて見直す年でした。ゴルフ場の公害、リゾートスキー場の問題、更に私の身近な所で行われている高層マンション建設など環境の変化が急速にすすんでいる姿を見て心の痛む思いがします。

ところで移動することの出来ない樹木は夫々巧みな冬芽をつくり、寒さと自然の脅威から耐えながら静かに春を待っています。草花も又早々に実を結び、落下し、暖かい落葉の中に潜り込み、雪の下で春の来るのを待っています。一方ナナカマドなどの実は小鳥の餌となり遠くに運ばれ、又ドングリの実もリスや野ネズミの餌となり随処に運ばれ夫々繁殖の手助けとなっています。このように移動することの出来ない植物は夫々冬を上手に利用しながら節目のある生活をしています。年輪もその証の一つで、今年も又樹々は新しい年輪を刻みました。

四季が半然とし、自然と生活に節目のある国は世界では日本だけだと思います。その美しい節目のある日本に生まれて私は幸を感じている今日この頃であります。

故郷、そこには、村祭があり、お花見があり、紅葉狩りがあり、雪との戯れがあって自然と生活が一致している国が私達が住んでいる日本であります。そのことを認識することこそ、故郷の自然を守る原点であると私は思っています。

ところで最近、活性化近代化の名の下に美しい身近な自然が失われ、不健康で砂漠化しつつある都市生活から逃れ、美しい自然を求めて旅立つ人々が年々増えているという。

このような現象を決して見逃さないのが企業であります。企業はあらゆる知恵と手段で故郷の美しい自然に変化を与えているのが北海道の現況であり、私達に多くの問題を提起しております。

ともあれ、わたしは今年も又多くの人々と共に森の中で語らい、共に楽しみ、美しい風土の中で味のある生活が続けられることを願いながら、新しく美しい年輪を刻んでいきたい。

平成元年度の事業を省みて

副会長 大友 健

私達の平成元年度の柱は、やはり前年度と同じく、野幌原始林の四季の観察会であり、そこには、前年と変わったところを見出し、そして広い範囲の自然をともとする人々との出会いが、そして感動があり、参加会員は、それなりの資質の向上があったことは確かである。

年々、フィールドとしている野幌森林公園に馴れ、自然の解説にも多角的な幅のある話に、参加者により以上の関心を持たせたことは、なによりも喜ばしいことである。

さらに本年は、我々レンジャーの資質の向上にと、道においては、ゼミナールを支笏湖国民休暇村にて、6月中旬に2日間開催され、初日の悪天候にもかかわらず、多数の参加があり、いままでの経験を通して、講義と実習に熱のこもった2日間を過ごし、出席者同志の仲間の紹介もあり、おおいに親しみも深まった。

さて、本年度の総会については、札幌圏を開催地にすることから、定山溪温泉の営林局保養所にて開催された。好天氣に恵まれ、緑濃い温泉郷で、出席人員に淋しさはあったが、議案をなごやかなうちに、承認し、夕食を兼ねた懇親会は、夜更けまで続いた。翌日は、一部の人を除き定山溪ダム周辺の森林観察会を景観美を味わいながら、午前中行き帰路についた。

議事については、別途報告の通り、広報部に所属していた自然観察業務を研修部に移し、部活動執行により以上努力するよう全員で確認した。

初夏の6月第1週の日曜日、恒例の環境週間の観察会は、前年と趣を変え北大環境科学研究グループも加わり、午前中野幌森林公園の野外観察をして、午後は北大教授の伊藤浩司先生による「野幌森林公園のおもしろさ」と野幌森林公園村野利用課長による「最近のネイチャーウォッチング」のテーマで話題提供が朝拓の村第2ホールであり、一般聴衆もまじえ、野幌森林公園の保存、利用方法についての、フリートークがありこのようなフォーラム方式も、はじめてのせいも、少しく深さはなかったが、我々には参考となるものもあり結構なものであった。

8月盛夏の野幌森林観察会においても道立林業試験場の環境科の方々、森林に関するアンケート方式の資料収集を行い、参加者はこれに協力したのである。目的は、今後の森林とその空間利用の基礎調査資料であるとのことで、我々レンジャーには今後の対応にやがてガイドラインとして示されることと思われる。

10月秋季における、協議会々員研修は、例年になく秋の気配が遅い、円山公園一帯で行われ、講師として、道立林業試験場の斉藤新一郎先生を招き、樹林の特徴的見方を中心にいろいろ植栽されている、外来樹種もまじえ、ご指導いただいた。冬芽の見方、花芽、葉芽、そして枝の特性による樹木名の見方などおおいに勉強になり、夕日の落ちる頃、宮の森ガーデンにて、参加者18名により、酒を、ビールを飲みながら、先生を囲み歓談をした。

11月初旬に「よいところ」にて、期間中、いろいろな、行事に参加し、そして活動を通じ、思い出になる話し合いを反省会の名のもとに行った。参加者は10名程度であったが、笑いと、慰めの言葉で、本年の活動を無事締めくくってくれたのが幸であった。

なお、この会には、第4期の会員も参加いただき、平成2年に向かって「共にやろう」との力強い言葉に飛躍し、行動的な協議会となるよう共々祈念し乾杯をしたのである。

私の自然観察会

渡島管内八雲町 1回生 臼井 信三

はじめに、昨年6月、支笏湖畔での道主催の研修会で、久しぶりに会員の方々と共に学習、懇談できて、とても幸せな気分に入ることができました。そして、居住地域へ帰ってから、何か役立つ機会があれば、協力したいという意欲を持って帰路についたのです。

道の方からも「支庁と連絡をとって、活動の機会をできるだけ多くしたい」とのお話して、少し忙しくなるのかなといった期待感もありました。

けれども、現在まで呼びかけもなく、ボランティア・レンジャー本来の活動に廻りあうことができませんでした。

もともと、大好きな自然観察です。個人的にできるだけ、大沼や町内、地域の自然に入ることはしてきました。丁度、昨年、「地質団体研究会」が発行した。巡検案内書「道南の自然を歩く」（北大図書刊行会）を手に入れることができましたので、これを頼りに、ルートを追って廻見をするようになりました。この書には、渡島半島全域について、地史、地質、動植物が網羅されており、視野を広げる良い手がかりを得、1日コースを設定して出歩くようになりました。

そんななかで、児童を対象にした自然探求サークルを作って活動していますので、今回、この二つの活動の様子を報告することにします。

1. 落部小学校2年1組の自然観察活動について

「エゾマツ」への投稿は二度目ですが、前回「自然観察クラブ」の実践について書きました。この中で、教え子を見て、自然へ入ることの少ない子、自然の中で自然とかかわって遊ぶことのできない子が多くて、何とかできないか、といったところが、編成の動機になったのですが、現在2年1組を担当し、授業の中にとり入れたのも、同じ視点でのことです。

あまり数多くできませんが、① 理科学習 ② 遠足 ③ 学年PTAのレクリエーション ④ 冬休みの自然観察について、学年、学級だよりより抜すいしてお知らせします。

① ある理科学習から (別紙1参照)

② 遠足 (別紙2参照)

③ 6月26日学年PTA父母と2年生44名が、近くの落部側鉄橋の下で、川遊びをしました。川渡り競争やスズエビ、魚とりなど、親子で遊びました。父母対象に、水せい昆虫の学習をしました。屋にお母さん方が作った、カレーライスを食べました。

④ 冬休みの自然観察について (別紙3参照)

2. 八雲町教育研究所自然探求サークル活動について
(別紙 1~4参照)

1989年度 自然探求サークル

第一回 自然観察会

5月18日(木)

落部地区 緑のつり橋付近にて。

(持ち物)

双眼鏡、小刀、山菜入れの
ビニール袋、図鑑類、ルペ

期待できる植物。

エゾライチコウ、夏鳥のこえ
ずり、その他 コケドリ、
アカハラ(魚類)。

春
の
動
植
物
に
親
し
ま
う

6月は日程的に実施が困難
と思われ、今回は是非
(服装) 参加されます
ように

長ぐつ、軍手。
虫よけできる、ガッツリた
服装。

期待できる山菜。

ワサビ、フキ、ウド、セリ、
ミズ(ウワバミソウ)
その他。

車は、何人かで乗り合
わせて下さい。

P.M. 3時30分 落部小学校前集合

参加希望者は、学校毎とりまとめ B7-ロックは、ハル阿部先生へ
A、C7-ロックは、落部、白井まで、15日までにTELで報告して
下さい。

((お土産)) 下の湯、館坂エルの杉林でミズを収穫します。
悪天の時は中止しますが、当日、電話で連絡はす。
連絡なければ実施します。

東小、3名(170遠足流小から後日連絡)、谷内(途中)、
小(秋原)、阿部。

自然探求サークル9月観察会

のお知らせ。

- はじめに、おわび。7月8月の例会誌ができず申し訳ありません。9月からがんばりたいと思います。
- すばらしい本が出ました。北大野書行会発行の「道南の自然を歩く」です。副主任の渡辺先生も編集にかかわっておられ、1440円の品が1300円で手に入るようです。道南全域が網らされ、コース案内付きです。きっとフィールドワークの良き友になることでしょう。

「第2回観察会」は-----

八雲の生いたちがテーマです。

- コース
- ① 黒岩のめのう石-----クリタフ時代
 - ② ①に八雲ホニセイヨウベツ川の貝化石
 - ③ -----氷河時代
 - ④ 鶴田碑の地層-----新第三紀
 - ⑤ ④に立岩-----中生代のマクラ
- ↳ 春日の河岸段丘を見晴せはす。

⑥ キノコ持ち寄りませんか。シーズンとなりましたが何かみそろしい感じで接しているキノコ。ところかたれでも2~3種は知って食べています。みんなで持ち寄れば、「これも食べられる」……食卓が豊かになります。

「冬季合同研自然観察会」の案内

期日. 1990.1.17(水) 13時30分

集会所. 八雲中学校 玄関前

観察内容. 主な樹木の特徴. 越冬芽の不思議. 野生動物.

巡研コース. 野田川前から熊嶺荘(入浴)まで.

解散. 16時. 八中玄関前.

持ちもの. 双眼鏡(あれば便利). 虫めかね. 小刀(カサ)

④ ④に立岩 ----- 中生代のマクラ

服装. 防寒を十分に. 長ぐつの方がよい.

1989年度 自然探求サークル活動報告

1. 研究課題 野山に入り、自然を探究する。
2. 活動計画 毎月、第3木曜日に、フィールドに出て観察する。
3. 活動の経過。

(1) 5月18日(木) 落部緑の吊り橋の沢、山菜とり。

3時30分からの活動であったが、7名の参加であった。ワカビ、ウド、ミツバ、セリ、フキ、トゴミなどに加え、ミズウミの採集もできた。花の沢は、晩秋、エノキタケが豊富であることも明らかにした。

(2) 9月21日(木) 八雲町の自然の宝探し探検の観察会、3名参加
黒岩、立岩、シャアサイン碑公園下の八雲層の観察。日照時間が少なく、上八雲の褶曲と化石層は、観察できなかったが、太古の昔にふれ有意義であった。

(3) 12月17日(水) 熊鷹野付近の自然観察、6名参加。

積雪が多く、降、たばかりで、アニマルトラッキング(昆虫観察)は、できなかったが、野田生川上流流域の樹木の観察ができたこと、川の浸食、堆積から、自然の歴史にふれられたのは、成果であった。又、ホオノキの冬芽の解剖から、成育の状況も、つぶさに観察できた。

4. 活動の反省。

- (1) フィールドワークサークルと統合してお話し、25名の入会を得たが、実際10名前後の活動となった。
- (2) なんとか、三回の活動ができたが、学校行事等との重なりで、なかなか活動できにくかった。
- (3) 八雲町は、自然に恵まれ、観察の対象に富んでいるので、今後がたのしみである。

山兔としらかばの木

加藤清春

私が18歳位のことと思います。終戦後の食べ物も余り無い頃だったのと父が千歳の飛行場の仕事も無くなり国より国有林の管理をしてほしいとのことで仕事もないし家族で山へはいりました。

始めはこんな山の中で暮して行けるのだろうか心配でした、犬を飼ったり、にわとりや、ぶたのはてまで飼いました。不安と山のなかでの寂しさからもあったのだとおもいます。しかし、すこし生活に慣れてくると、もっと山の物を食住に利用出来ないものかと思うようになり色々な事を付近の農家の人達に教わりました。

木の名前、切り方、利用の仕方、スミの作り方外沢山教わりました。きのこ、山菜、動物のことも、今から考えると35、6年前になりますね一番印象に残っていることは兎です

肉類が欲しくて兎に目を付けたのですしかし、どうやって取れば良いのか祖父に聞きましたところ(ワナ)を兎の歩く道を見つけ掛ければ朝までにはかかるはずと聞かされ早速試しましたしかし毎朝、毎朝見に行っても掛かりません祖父にたづねました。ところがそう簡単には山の生き物は敏感だからとれるもんでない人の臭い、気配を感じると出てこないものだと言われました、一番よいのは白樺の木を倒し2、3日置くそうするとあちら、こちらと兎の歩く道が出来るからそこへ上手にワナを掛け人の臭いが無くなるまでまって、いってみるとのこと、しばらくして行ってみると何と5羽も6羽も掛かっているではないですか雪のなかを転げ回って喜んだ思い出があります。野兎は特に白樺の芽が好物のようです。

今思うと何んて残酷な事をしたものかと山へいくたび、兎を見る度に思い出します。この雪のなかで食べ物を一生懸命に捜している事でしょうね早く春が。...



●のうさぎ

「初冬のひととき」

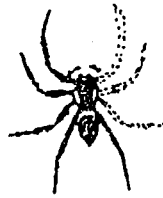
「小さなクモとの不思議な出会い」

小山 賢一郎

外が寒くなって、庭木の冬囲いも長くは続けられなくなった。
そういえば、俗にハモグリグモと称する連中が家の中でやたらと目につくようになった。
ふと眼をこらすと、体長2ミリほどの、足の長さまでは5ミリはあるか。それにしても小さなクモ。おかしい恰好だ！
それもそのはず、右足は後ろの1本を残して前の3本がない？なぜか一瞬奇形かな？と我が眼を疑った。でも、やっぱりそうだった。
「お前はどうしたの？」無言の問いかけに、応えてはくれない。だが足を止めて、この問いかけが聞こえたのかじっとしている。「いやー、どうして、こうなってしまったのか、僕にもとんとその原因がわからなくてさ、でも、それほど苦にはならない」「ほら！僕の歩く先を追って見てくれ。こんなにスムーズに、結構早く歩けるだろう。わかってくれたかな」「僕たちの仲間にも、時おりどういうわけかこんな恰好をしているやつを時々みかける」でもなんとか生きていける。たとえ、こんな恰好でも、おてんとう様の暖かさも季節の移り変わりも、ちゃんとわかる。」「とにかく、僕に与えられた生の営みを見て、その虜になったように……。
いや、今にして思えばこれらの人間の生存にかかわる大きな知恵を与えてくれたように、それが無言の訴えとなっていることに気付いた。
私に残されているこれらの人生に、またひとつの指針、となった。すがすがしいひとときであった。

平成元年11月4日のできごと

ハエトリグモ科



ドサンコに乗っての釧路湿原探勝

小樽市 鈴木 芳男

ドサンコ（北海道和種馬）による釧路湿原探勝が、一昨年夏から実験的に5回程行われ、自然保護との調和など話題を呼んだが、その活用性に自信を深めている。

日本の国立公園で、ウマを本格的に利用しているところはなく、自然公園との新しい触れ合い方法として注目されそうだ。

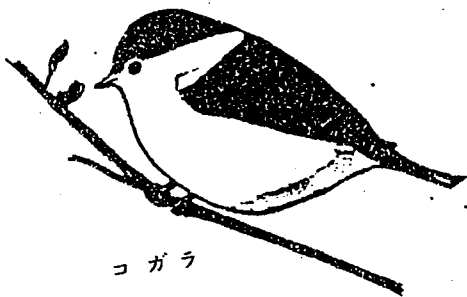
公園事務所はこのほど「乗馬による公園利用策を探る研究会」を発足させた。研究チームは十数人。委員は、釧路、十勝管内の馬の生産者、大学教員、外国人女性などで、公園区域の四市町村（釧路市、鶴居村、阿寒町、釧路村）農業団体、自然保護団体、観光業者からも意見を求める。

中心テーマは、ウマを使った自然探勝の事業化。米国、カナダ、イギリス等の国立公園の事例を調査し、釧路管内鶴居村の宮島岬でドサンコ数頭を連ねた実地踏査をくりかえす。連続的に手がける場合の問題点を洗い出し、今春、報告書をまとめる段取りである。

湿原保護最優先の利用を模索する環境庁はできるだけ自動車を公園核心部に近づけない方策として、カヌーやドサンコの利用に注目、鶴居村下雪裡でドサンコ二十数頭を飼育している瀬川鶴雄さん（77）＝北海道和種馬保存会釧路支部長＝の前面的協力を得、瀬川牧場から湿原に突きでている宮島岬までの往復三十キロのトレッキング（乗馬小旅行）を二回実施したところ定員二十人に対し百人をこえる応募者があった。昨年は鶴居村観光協会が引き継いで、六月から九月にかけて三回行い、中学一年生から六十六才までの老若男女三十二人が公園で、ドサンコによる森林浴を満喫した。

一方、事業運営については、飼主の瀬川さんやボランティアグループに頼っていることから、環境庁では息の長い継続事業にするための具体的な検討が急務と判断、研究会を発足させてウマの確保や料金設定等を含めて問題点をさぐるこことしたものである。

「安全面についても気をつけていけば、危険が少ないことは実証済み」と三浦保護課長も意気込んでおり、ドサンコの本格的活用を目指す動きは、ウマ年の本年大きく前進しそうである。私達、釧路湿原ボランティア・レンジャーにとっても、本年度の重点活動目標ともなろう。春の待たれることである。



コガラ

「野幌森林公園秋の森林観察会から」

佐々木 幸夫

早いもので間もなく、定年を迎える年代になりました。

自分の関心あることで、かつ、自分に益し、また社会にも何かしらのお役に立つようなことがあれば、と常々思っていました。

たまたま友人から、本年7月に北海道主催のボランティア・レンジャー研修会があるとの話を聞き、早速、参加したのが第4回研修会です。

今回は、10月22日(日)に開催されました秋の森林観察会に、ボランティア・レンジャーとして参加しましたので、拙い文章表現で恐縮ですがその体験を記します。

当日は、天候は曇りでやや風があり、ミーティングの関係もあって定刻少し前に集合場所の大沢口に着きました。

大沢口では既に相当数の参加者がおり、その盛況ぶりに驚きましたが、後で私達のグループ以外に、2つの野鳥観察グループが同じ場所に集合することになっていたのです。

やがて、野鳥観察グループが森に消えました。急に人が減りましたので、一種の不安がよぎりました。後で聞いたことですが、関係者を含め84名の参加でした。

いずれにしても、今回はボランティア・レンジャーとしての自然観察会であり、いささかの緊張感があります。幸にも同期で江別市に在住する須賀先輩の姿を見て、何かしらホットしました。

出発前に河村会長と住吉先輩から、それぞれミーティングを受け、次いで主催者側の野幌森林公園事務所の油津さんからあいさつがあった後、班編成(約20名位)し、私と須賀先輩は第1班で、河村会長がリーダーとなりました。

今回は、大沢口を出発し、エゾユスリハコースから四季美コースに入り、松川、大沢の沼を望んで大沢園地で昼食をとり、カツラコースを通過して出発点に戻る、約5.6キロの一周コースです。

また、見どころは、住吉先輩の作成したパンフレットにもありますように紅葉であり、時期としては最適で、森全体の色調が微妙に変化し、私どもの目を楽しませてくれました。

夏の間は、葉が茂り森林といった感じですが、今回の第一印象は、落葉広葉樹林の特徴で森全体が明るく、林といった方が適切に思われます。まさしく今の時期の感触ですが、小道は落ち葉が堆積して足裏に心地好い弾みをつけておりますし、カッラの香りも今の時期が最高潮で強烈です。

河村会長はベテランぶりを発揮され、目につくもの総てと行ってよい程説明されています。いや、目についたものだけではありません。例えば落ち葉に関連して、広葉樹林での落ち葉の単位面積あたりの量やその働きについての説明がありました。

私も折角の機会であり、会長の説明を十分に聞きたいところですが、班の後尾について質問に答えたり、知っていることを話さなければならないという緊張感で、よく聞けませんでした。

本当に混交林は、変化に富んでいますね。よく観察してみますと、同じ樹種でもその成育環境により、紅葉、落葉の度合いが異なり、自然観察のよい対象だと思いました。多分、先頭で河村会長が、カエデ類の説明をしているのでしょう、アカイタヤと思われる落ち葉をさがしています。

さて、森のなかか、明るくなったと前に触れましたが、森林のうち、一番裸の状態がヤチダモです。そのほか、若干の差異がありますが、ホウノキ、ウダイカンバ、ハリギリ、アサダ、サワシバ、シナノキ、ハクウンボク、オ

オバボダイジュ、アズキナシ、エゾカエデ、カツラ、ハルニレ、シラカンバ、ミズナラ、ミズキ、コシアブラの順でしょうか。特にコシアブラの黄白色は、油分を含んでいることが判るような感じがします。

主役の紅葉を彩るトップはヤマモミジ、それにハウチワカエデ、アカイタヤ、ツリバナ、ツタウルシです。また、草本、灌木で目につくものは、ゲンノショウコ、マイズルソウ、ノブキ、ミミコウモリ、オトギリソウ、オオアワダチソウ、トチバニンジン、サラシナショウマ、ルイヨウショウマ、エゾハイイヌガヤ、エゾユスリハ、フッキソウ、ツルシキミなどの子実が観察されます。また、こんな時期でも緑の濃い植物では、ヒメヘビイチゴ、ハナタデ、イヌタデ、ユウゼンギク、ジショウイチヤクソウにシダ類ではオシダ、シシガラシがあります。つる性の植物では、ヤマブドウ、コクワ、ツルアジサイ、イワカガミ、ツルウメモドキ等でした。常緑高木（亜高木も含む）では、イチイ、トドマツ、アカエゾマツなどですが、トドマツの立ち枯れが目立ちました。

四季美コースに入ってからの高台で、大沢沼越しの対岸に眺望される紅葉の美しさは、葉色による樹種の違いなどを含め、格別でした。大沢園地附近になると、溪畔林を形成するケヤマハンノキ、エゾノカワヤナギ等があり、大沢園地に入ります。ここは野幌森林公園でも、他に見られない高木地帯で、ときには梢にヤドリギが共生しています。なかには黄色の実と思われるものが見られますが、多分雌株なのでしょう。

昼食は大沢公園でとりましたが、その後天気が崩れそうなので、予定の時刻より早めに出発です。気温も下がってきました。

カツラコースでは、全コース最後の紅葉を鑑賞しました。このコースの中間に傾斜のきつい箇所があります。そこでの実感ですが、紅葉も高いところから見おろす眺めがよいようです。

午後2時15分頃出発点に到着し、後続を待ちました。気温はどんどん低下し、風も強くなってきています。

最後の班が到着して、住吉さんと小畑さんの感想を聞き、解散したのが45分を廻っていたのでしょうか。疲れました。

そうそう、今回はルリ色の小さな実をつけた灌木、サワフタギを知ることができました。単独行と異なり、沢山の人達の前で話すことは苦手であることと、まさしく浅学非才の身を嫌という程、体験した自然観察会でした。



年間行事計画（四月以降）

大友 健

ボランティア・レンジャー協議会として、協力参加、または主催する行事計画につきましては、次のとおりなので、会員各位におかれましては、是非都合をつけられ、参加下さいますようお願い致します。

あお、現在未定となっております、関係機関等の行事計画につきましては、後日お知らせ致しますのでご承知おき下さい。

A 平成2年度野幌森林公園関係 （別紙のとおり）

B 道自然保護課及び協議会関係

○7月上旬、レンジャー・ゼ
ミナール（道）
（札幌 1泊2日の予定）

○7月、レンジャー協議会総
会（協会）
（札幌の予定）

○9月・レンジャー協議会観
察会開催（協議会）
（札幌圏で第一回目とする予
定）

○10月中旬、レンジャー協議会
員研修（協会）

※ 各支庁、町村関係は、道より後
日とのことです。

編集後記

12号をお届け致します。今回は原稿を10名の方に依頼したよう
ですが年度変わりでご多忙の方が多く6名の方から原稿をいただ
けるのがやっとでした。投稿いただくことは大変なご苦勞です。

前回は量的にたくさんありました。今回は前回より少ないです
が、「長続きさせるためには無理せず・・・」というのか法報部の
モットウです。そのためにも今後も投稿をお願いするしたいです。

（山上）

豊浦町へ出向く

住吉 光子

昨年夏のことでいささか遅い原稿になってしまったが、豊浦町「せせらぎスクール」に出向いた折りの顛末を報告させていただくことにしたい。

七月中旬、道自然保護課から、豊浦町の子供会リーダー研究会で自然保護に関することでの、適当な講師をと依頼されたので出向いてもらえないかとの電話があり、出かけることになった。

企画は、豊浦町役場企画調整室であり対象は小学6年生から中学2・3年生の児童生徒30名、教室で1時間程度の講義と、自然公園内での観察を2時間程度という依頼である。

普段は何となく自宅に近い森林で同じボランティア・レンジャーの方々と気楽に案内させていただいていいるだけの私であるが、豊浦町長名で正式に公文書が届いた時は、一寸ばかり緊張もしたが、対象が小中学生という事で、私の潜在している「今の教育には自然に対する物の見方・考え方に対して不足している部分が多すぎる」という考えを自分なりに補ってみるには良い機会だと思いで一杯であった。

それにしても私にとっては豊浦町は一昔前に職員旅行で一度だけ訪れただけの、はたての美味しい静かな海辺の町というだけの知識したないところである。まして今春オープンしたばかりの自然公園の中にもどの様な自然があるのか、全く見当がつかないし、札幌近郊とは植生もかなり違うことも予想される。下見に出かけるには少々遠すぎるし、夏休みに入っている道程を長距離運転するには自信も欠く。

そんなこんなをカバーして下さったのが企画調整室の方である。

豊浦町に関する町勢要覧、観光パンフレット、教育委員会作成の開催要項、昨年度の「せせらぎスクール」の資料、室蘭民報発行の自然公園オープン記事のコピー等の事前送付、列車の便、宿泊、町内の車の手配、至れり尽くせりの配慮をいただき、私の方では心おきなく、研修の為の準備に専念することができたことは本当にありがたい事でした。

先ず私は、自分が今何を必要としているかを整理する為に、いままで学習させてもらった育成研修会参加の際の資料等を丹念によみ直すことから始まりました。

目先の活動の目的や対象がはっきりしていると、資料の見方や利用の仕方も選別しやすいものである。そういう意味からは昨年6月支笏湖畔での実践セミナーから大畑孝二さんの資料等は大変参考になりました。

次に私は、自分の為にセルフ・ガイドブックを作成した。



「オオカメノキ

内容は

- ① 観察コース見取図 (観察ポイント・所要時間)
- ② 自然の成り立ち
- ③ 森林相
- ④ 植物分布
- ⑤ 植物生息相 (動物・鳥類・昆虫・魚類)
- ⑥ 付加情報 (交通機関・利用施設案内・年間行事予定)
- ⑦ 観察の心得

などであるが、先にも書いたように下見なしでは到底書き込めない事が多い。資料の範囲で書き込めることは書込み、前日に下見をする為の時間に十分余裕をとることにした。

次に私は講義のためのカリキュラム作りと、自然観察のポイントを明らかにした。このことに関しては対象が小中学生ということから教師をしていた20年間の経験が少なからず役立ったように思われる。

与えられた1時間の講義とその後の2時間の自然観察の概略は次の様なものになったが参考までに記述してみたい。

テーマ	森林の大切さを知る
ねらい	自然、特に森林の重要性について理解を深め森林の観察を通して自然のしくみを知る。
進め方	<p>(導入) ・光合成について復習してみる。 ・加工品となる森林の働きではなく、自然の中の森林の働きについて学習するという目的意識をもたせる。</p> <p>(展開) ・1本の木の1年間の変化から、木は土を作るものになっていることを知り、そこに住む様々な動物や季節の変化により土が団粒構造をなしていくことを理解する。 ・近くに流れる川の源を予想し、地下水と森林の働きを理解する。 ・防風、防霧、防雪、防砂、防火、土砂くずれ等と森林の働きを豊浦の地形にあわせて考える。 ・生活環境を良くするためにも森林は見えない役割を果たしていることを理解する。</p> <p>気温の調節 空気清浄 防音 風景 レクリエーション・森林浴</p> <p>(まとめ) ・豊浦町の森林について目を向けさせて「せせらぎスクール」の意味と私達の役割について考える。</p>

次には参加者の理解を得るための資料作りである。
講義のためには

- ① 光合成の絵図
- ② 森林浴の働き
- ③ 森林を育てる為の作業絵図

等をマンガ的に作成した。観察のためにはメモができるような空白をとって「しおり」を作成した。主な内容は

- ① フィールドマナー
- ② 森林のつくり
- ③ 木の仲間 (森林公園の樹1200本の中主なもの20種位分類した)
- ④ 夏の野の花
- ⑤ 野鳥
- ⑥ 虫の仲間

等で、イラスト入りの親しみやすいものに心かけた。

そんなこんなで、ほぼ2週間の準備期間の毎日がなんと充実した楽しいものであったことか、今になっても夢中でワープロを打った時間、イラストに取り組み絵筆を運んだ時間に、ほのぼのとした思いを残している。

さて、観察会は8月4日、私に与えられた時間は朝9時から12時迄である。下見に時間を取るために前日のうちに公園に入り、観察のポイントを整理する必要があった。幸なことに両日とも天候に恵まれ、教育委員会の社教主事さんとの企画調整室の半沢さんが下見の日も同行して下さいました。

自然公園内の四つのゾーンの中「ふれあいの森」として自然との触れ合いを目的とした観察路が設置されている。林はカエデ、イタヤ、ヤチダモ等の広葉林が広がる自然林で、コケラの出迎えを受けたほど高木が繁っている。然し残念なことに観察路の設置のために土が掘り返されたばかりで草本類や虫の観察には不向きであった。

今回の私のテーマは森林の観察を通して自然のしくみを考えることであるから、やはり、森林の土の感触がほしかったし、夏の野の花の豊かさも目を向けさせたかった。係の方から了解を得、ゾーン外の所でも観察させてもらうことにした。

子供達は熱心に話を聞いてくれた。男の子は虫や鳥に興味を示し、女の子はやはり野の花に感嘆の声を上げた。一緒に歩いてくれた大人の方々も笑顔で励ましを与えてくれた。

私の観察記録にも普段得られないものが数多く付け加えられた。

何よりも嬉しかったことは、役場の方々をはじめ、育成会の方々が、明日の豊浦を担う子供達に自然を愛する人に育てたいという思いを強くもっているということであった。

その為の一環としてこの「せせらぎスクール」が開催されているわけであろうが、私の方も久ぶりに意義ある仕事をしたという充実感で満ちていたことを今でも思い起こされる。

自然保護が叫ばれて久しい、道のボランティア・レンジャーのメンバーが引っぱりだかという時期が早くきてほしいものである。

「60Km雪中歩き」

玉田 紀美子

私達夫婦の冬の行事のようなもので、夫の会社の連休を利用して自宅から定山溪迄歩くのです。

1月13日の9時10分出発。帽子、アノラック、リュック、スポーツズボン、スノートレと言ういでたちで厚着をせずなるべく機械的なスタイルで歩きます。円山、薬岩山の裾野を通り、川沿、石山を進んで行きます。

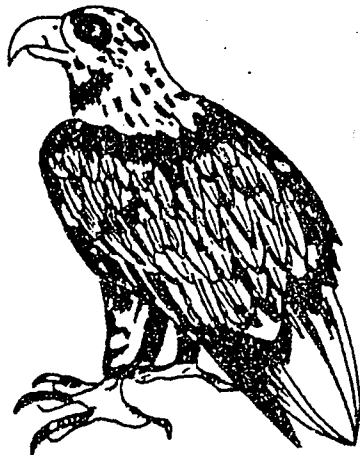
この辺はまだ住宅地なので景色を見るよりは商店街を見て歩きます。石山に入って間もなく、おいしい「そば屋」さんがいます。そこでいつも昼食にします。12時20分到着。おそばを食べ夫はビールを飲み、休息をとって1時出発。裾野に入ってから不思議な場所があります。商店街の一角にポニーを8頭柵の中で遊ばせています。おやつをやったり顔をなせたり、子馬はやはり可愛い顔をしています。

篠舞に入ってくると歩いている人も少なくなり、山々も近く見えてきて、山の中に入って来たような気分になります。いままであった歩道も片方だけになり、おまけに雪で固まっていて傾斜していて、私達は車道にころげ落ちない様におっかなびっくり歩いていると、前方から来た車は危険物があるとばかり、大きくカーブして走り去ります。

篠舞ちは、八剣山(504メートル)という剣を天に向けたギザギザ山があります。私達は春と秋には必ず登る山で1時間足らずで登頂できます。スリル満点の場所もあり、私はマムシに出合っただけで絶叫したこともあります。春には花がカーペットのように咲きみだれ、秋には薄暗い所でトリカブトの花は恐怖と神秘が漂っています。山頂は7~8人で満席になります。展望は抜群、定山溪の山並みと眼下には豊平川の流れが美しく、この山は私にとっては非常に印象の強い山になっています。雪で化粧した八剣山は一段と美しくなっています。雪の降り積もった歩道は疲れた足を更に疲れさせます。

バス停の小屋に入り熱いウーロン茶とヨウカンを食べ一休みして歩きます。特徴的な形をした神威岳とエボシ岳が見えてきました。

小金湯に入り、目的地も近くなってきました。定山溪の少し手前のトンネルの付近にカタクリの花が沢山咲く場所があります。5月にこの場所に来ます。



オジロワシ

4時30分に会社の保養所に到着。宿の御主人の驚きの顔と賞賛の言葉に迎えられ、そして、「玉田さん、今日のお部屋は三階の奥の部屋ですよ」玄関に入った途端総ての緊張もとめます。疲れた身体で上がる3階迄の階段は大変苦痛で二人とも、重病人のような恰好で上がります。

部屋に入るとすぐ帽子、アノラック、リュックを放り出し暫くの間ひっく返っています。

明日家に帰る迄は主婦業は何もしなくてもよい。疲れれた身体を平和な気持ちでお風呂に浸ります。宿のまあまあの食事

夫はビール、わたしはサイダー。外は小雪。川には湯煙が上がり温泉気分に

満足します。

翌日、9時20分出発、昨日の道を折り返すと、私達が昨日つけた2すじの足跡だけがついています。14日の連休の初日のせいか屋根にスキーを乗せた車の多いこと。「〇〇スキー場行き」とか「〇〇貸切」という大型バスは20台位すれちがいました。

こんなにスキー客が大勢押し掛けたらゲレンデは「豆をころがすのごとく」になっているのではないかと想像しました。国道230号線は車はジュズ繫ぎです。歩いているのは私達2人だけ。このような状態が2時間近く続きます。帰り道はなだらかな下り道のせいか、昨日の足の疲れはさほど気になりません。

昼食は石山の「おそば屋さん」でとり十分休んで出発。ただただ家を目指して歩きます。途中大きなスーパーに入り、夕食のおかずを買い、5時に到着しました。大変つかれましたが気分は爽快です。このようなことは2月と3月にまた計画しています。

平成2年2月4日

冬のたのしみ

高橋 雅子

我が家近くの防風林は(石狩町花川北防風林)四季それぞれの楽しみを与えてくれます。

雪が消えるとすぐナニワズ、フッキソウなどが咲きだし、5月にはエンレイソウが群落で見られ、かなり豊かな種類の植物が見られます。

今の季節はなんといってもバードウォッチングに最適!早起きした日曜日には、双眼鏡を持ってひとまわりします。その時ばかりは時間に追われる生活から離れ、のんびりした一時を味わっています。

今年の冬はまだナナカマドなどの木の実も残っていて、鳥の姿も少なく、コゲラ、アカゲラ、ムクドリ、シメ、ツグミ、シジュウカラ、ハシブトガラぐらいにしか会えませんが、落葉樹が多いので鳥の姿は見つけやすいです。

この林で伐採された切り株をつついてクマゲラにでくわしたこともあります。2年前に枯れた木、朽ちた木、その他にも大きな木がそうとう伐採されたので、すっかり見通し、風通しもよく、寂しくなった防風林です。

しかし、こんな住宅街の小さな林にもクマゲラが来るなんて・・・。
先住の民が生活の為に大変な思いをしてつくったであろう防風林も時代の流れについて変わってきているようですが、町の小さな自然いつまでも残して欲しいと強く願います。

編集後記

「エゾマツ」12号をお届け致します。今回もまたたくさんの方から「人格がにじみ出る」原稿をお寄せいただきました。

都合により送っていただいた原稿をワープロに打たず、そのまま掲載させていただいた方もおります。ご容赦いただければ幸いです。

今年度はこの後発行予定はありません。来年度もたくさんの方の原稿をお待ちしています。最後になりましたが、先日の役員会の席で、「地域の組織の強化」について討議されました。次期総会までに具体策を会員の方に提案すべく取り組んでいますので併せてお知らせ致します。